

令和5年度 主要事業評価シート

① 基本事項	計画コード	22033	事業名	みえ森と緑の県民税市町交付金事業			
	事業手法	☐ 直営 ☒ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助等 ☐ その他()					
	施策体系	施策の大綱	01:快適さを支える生活基盤の向上		予算科目	会計	01:一般会計
		基本施策	09:自然との共生			款	06:農林水産業費
		施策の方向	01:鈴鹿川等源流域の保全・継承			項	01:農林水産業費
		重点プロジェクト	03:「しなやか田園都市」プロジェクト			目	06:林業振興費
事業期間	H 26 年度 ~ R 6 年度	主な根拠法令等	みえ森と緑の県民税市町交付金事業実施要領				

評価分類	A1
------	----

担当部署	
部	産業環境部
課	農林振興課 農林政策G・農林施設G

② 事業概要 (P)	事業の必要性(経緯・背景等)	事業の対象(誰に、何に対して)	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	事業の内容(どのような取組を行うのか)
	災害に強い森林づくりと県民全体で森林を支える社会づくりを推進するため、県が平成26年に導入した「みえ森と緑の県民税」を財源に県内全市町へ交付金が交付されており、本市においても、この財源を活用し森林保全を進めていく必要がある。	鈴鹿川等源流の森林づくり協議会、市民団体、市民	身近にある荒廃した里山、竹林の再生など暮らしに身近な森林づくりに取り組むとともに、将来に継承すべき豊かな自然や森林と市民との関係が身近となる機会を創出し、豊かな自然との共生や森林の役割についての理解を深める。	里山整備等を行う市民団体等へのウッドチップの貸し出し、自然公園「やまびこ」の整備を行うとともに、森の講座により森林保全の担い手の育成を行う。また、鈴鹿川等源流の森林づくり協議会への活動支援を行い、森林保全に向けた機運を醸成する。

③事業の実施状況（P・D）

年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		
事業計画		○事前伐採事業 ○竹林整備支援 ○木育・木工工作等 ○鈴鹿川等源流の森林づくり協議会への活動支援		○森の講座（チェーンソー講習） ○竹林整備支援 ○木育・木工工作等 ○鈴鹿川等源流の森林づくり協議会への活動支援		○森の講座 ○竹林整備支援 ○鈴鹿川等源流の森林づくり協議会への活動支援				
活動実績 （計画通り実施できたか）		台風等の倒木被害により電線などを寸断する恐れのある樹木について、事前伐採を0.05ha行った。里山・竹林生活環境保全事業としてウッドチップの貸出しによる里山竹林整備0.4haを行った。森と木材のふれあい事業として森林学習などを3回開催した。鈴鹿川等源流の森林づくり協議会の活動支援として、イベント4回を開催し92人の参加者があった。		指標の開催回数は達成できなかったが、チェーンソー講習や木工工作等のイベントを2回開催し、36人の参加者があった。里山・竹林生活環境保全事業によりウッドチップの貸出しによる竹林整備0.1haを行った。鈴鹿川等源流の森林づくり協議会の活動支援として、イベント3回を開催し80人の参加者があった。						
計画額	事業費	6,400千円	5,566千円	4,900千円	4,317千円	1,900千円				
	国・県支出金	5,200千円	4,743千円	3,800千円	3,749千円	1,630千円				
	地方債		0千円							
	その他	1,000千円	742千円	1,000千円	476千円	170千円				
	一般財源	200千円	81千円	100千円	92千円	100千円				
決算額	事業費		5,536千円		4,258千円					
	国・県支出金		4,743千円		3,749千円					
	地方債		0千円							
	その他		742千円		476千円					
	一般財源		51千円		33千円					
①期間内計画額（R4-7）		13,200千円		②期間外計画額（R8-）		0千円	①+②総計画額		13,200千円	

(令和5年度予算額の内訳)

前年度からの繰越額	0千円
当年度の最終予算額	4,317千円
次年度への繰越額	0千円

④ 指標 (C)	指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	災害からライフラインを守る事前伐採事業	伐採箇所数	活動	箇所	計画値 実績値	2 2			
	イベント実施回数	木育、木工工作などイベント実施回数	活動	回	計画値 実績値	3 3	3 2		
	講座参加者数	講座参加者数	成果	人	計画値 実績値		20 18	10	

⑤ 成果 (C)	事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか)	
	B	イベント実施回数や講習参加者数の指標を達成することが出来なかったが、チェーンソー講習や木工工作等のイベントに市民が参加いただくことにより、豊かな自然・森林との関係が身近となる機会を創出し、自然や森林と共生する意識の醸成、森林の持つ多面的機能への理解向上を図ることができた。
まずまず成果を得た		

事業の対象	事業の目的
鈴鹿川等源流の森林づくり協議会、市民団体、市民	身近にある荒廃した里山、竹林の再生など暮らしに身近な森林づくりに取り組むとともに、将来に継承すべき豊かな自然や森林と市民との関係が身近となる機会を創出し、豊かな自然との共生や森林の役割についての理解を深める。

(再掲)

⑥ 課題 (C)	事業の達成状況等を踏まえた課題事項	
	災害に強い森林づくりへの取組として、里山竹林整備を進めていく必要がある。また、イベント参加者が増えることでより多くの市民に自然や森林と共生する意識の醸成、森林の持つ多面的機能への理解向上を図られるが、現在は参加人数が減少傾向にあるので、市民の参加意欲が沸く魅力あるイベントを企画していく必要がある。	

⑦ 事業の展開 (A)	方向性	
	継続(現状維持)	現状どおり事業を継続する
	改善・見直し内容	
	令和6年度で対応する(した)もの 「災害に強い森林づくり」への取組として、多くの団体にウッドチップperを活用していただけるよう里山竹林整備の必要性和貸出し事業の周知を図る。「県民全体で森林を支える社会づくり」への取組として、魅力ある木育等のイベントを企画運営すると共に、鈴鹿川等源流の森林づくり協議会への活動支援を積極的に行い魅力あるイベントの開催を支援する。	令和7年度以降で対応するもの

(履歴)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
成果判定	A	B		
事業展開	継続(現状維持)	継続(現状維持)		

1次評価者	産業環境部 農林振興課 農林政策GL 小澤 栄一
最終評価者	産業環境部 農林振興課長 鳥喰 さとみ